

資料 4 公共施設再編計画の策定過程

資料 4-1 策定体制

(1) 鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例	
	平成 24 年 9 月 27 日 (条例第13号)
(趣旨及び設置)	
第 1 条 この条例は、本市の公共施設の再編を効果的かつ効率的に推進するため、公共施設再編計画の策定に関し調査審議を行う鎌倉市公共施設再編計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。	
(組織)	
第 2 条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。	
2 委員は、学識経験を有する者、公共的団体が推薦する者又は市職員のうちから市長が委嘱し、又は任命する。	
(任期)	
第 3 条 委員の任期は、委員会の所掌事項の処理が終わるまでの期間とする。	
2 前条第 2 項の規定による身分又は資格に基づいて委員に委嘱され、又は任命された者がその身分又は資格を失ったときは、委員を辞したものとみなす。	
(委任)	
第 4 条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。	
付 則	
この条例は、公布の日から施行する。	

(2) 鎌倉市公共施設再編計画策定委員会名簿

	氏名	所 属
委員長	根本 祐二	東洋大学大学院経済学研究科教授 東洋大学 P P P 研究センター長
副委員長	小松 幸夫	早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授
委員	李 祥準	首都大学東京 都市環境学部建築都市コース 助教
	増井 玲子	東洋大学 P P P 研究センターリサーチパートナー チームワークス L L P
	南 学	東洋大学客員教授
	瀧澤 由人	鎌倉市副市長 (平成 25 年度から委員は学識者のみで構成)
幹事	比留間 彰	鎌倉市経営企画部長 (～平成 25 年度 相川誉夫)
	佐藤 尚之	鎌倉市総務部長 (～平成 25 年度 廣瀬 信)
	嶋村 豊一	鎌倉市防災安全部長
	梅澤 正治	鎌倉市市民活動部長 (平成 24 年度 小磯一彦)
	進藤 勝	鎌倉市こどもみらい部長 (～平成 25 年度 相澤達彦)
	柿崎 雅之	鎌倉市健康福祉部長 (～平成 25 年度 佐藤尚之)
	小磯 一彦	鎌倉市都市整備部長 (平成 24 年度 山田栄一)
	渡辺 一	鎌倉市拠点整備部長 (～平成 26 年 山内廣行)
	相川 誉夫	鎌倉市教育部長 (～平成 25 年度 宮田茂昭)
	高橋 卓	鎌倉市消防長

(3) 鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例施行規則

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例施行規則

平成24年9月27日

(規則第16号)

(趣旨)

第1条 この規則は、鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例(平成24年9月条例第27号)第4条の規定に基づき、鎌倉市公共施設再編計画策定委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員長等)

第2条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(会議の公開)

第4条 会議は、公開とする。ただし、委員長が公開することが適当でないと認めたときは、これを公開しないことができる。

(意見の聴取)

第5条 委員会は、その所掌事項について必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(部会)

第6条 委員長は、必要に応じ、委員会に部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、委員長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから委員長が指名する。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

5 部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

6 前3条の規定は、部会について準用する。

(幹事)

第7条 委員会に幹事15人以内を置く。

2 幹事は、市職員のうちから市長が任命し、委員会の所掌事務について、委員を補佐する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、この委員会の所掌事務を所管する課等において処理する。

(その他の事項)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

付 則

この規則は、公布の日から施行する。

(4) 鎌倉市公共施設再編計画策定庁内検討会設置要綱

鎌倉市公共施設再編計画策定庁内検討会設置要綱

(趣旨及び設置)

第1条 この要綱は、本市の公共施設再編計画策定に向けた取り組みに関し、広く検討を行うため、鎌倉市公共施設再編計画策定庁内検討会（以下「検討会」という。）を設置し、その組織及び運営に関して必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 検討会の所掌事務は、次に掲げる事項を協議及び調整することとする。

- (1) 鎌倉市公共施設再編計画策定委員会（以下「委員会」という。）での審議事項
- (2) 個別の公共施設再編に関する事項
- (3) その他、公共施設再編に関し必要な事項

(構成)

第3条 検討会の構成は、別表1のとおりとする。

2 会長は、必要に応じ、臨時委員を置くことができる。

(職務)

第4条 会長は、会議を招集してその議長となり、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(意見の聴取)

第5条 検討会は、その所掌事務について、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(公共施設再編運営会議)

第6条 委員会及び検討会の円滑な運営を支援し、必要な事項について調整等を行う事務局として、公共施設再編運営会議（以下「運営会議」という。）を設置する。

2 運営会議の構成は、別表2に掲げる課等の長の推薦により、その所属する職員を充てる。

(庶務)

第7条 検討会及び運営会議の庶務は、この検討会の所掌事務を所管する課等において処理する。

(その他の事項)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が検討会に諮って定める。

付 則

この要綱は、平成24年9月28日から施行する。

付 則

この要綱は、平成26年5月7日から施行する。

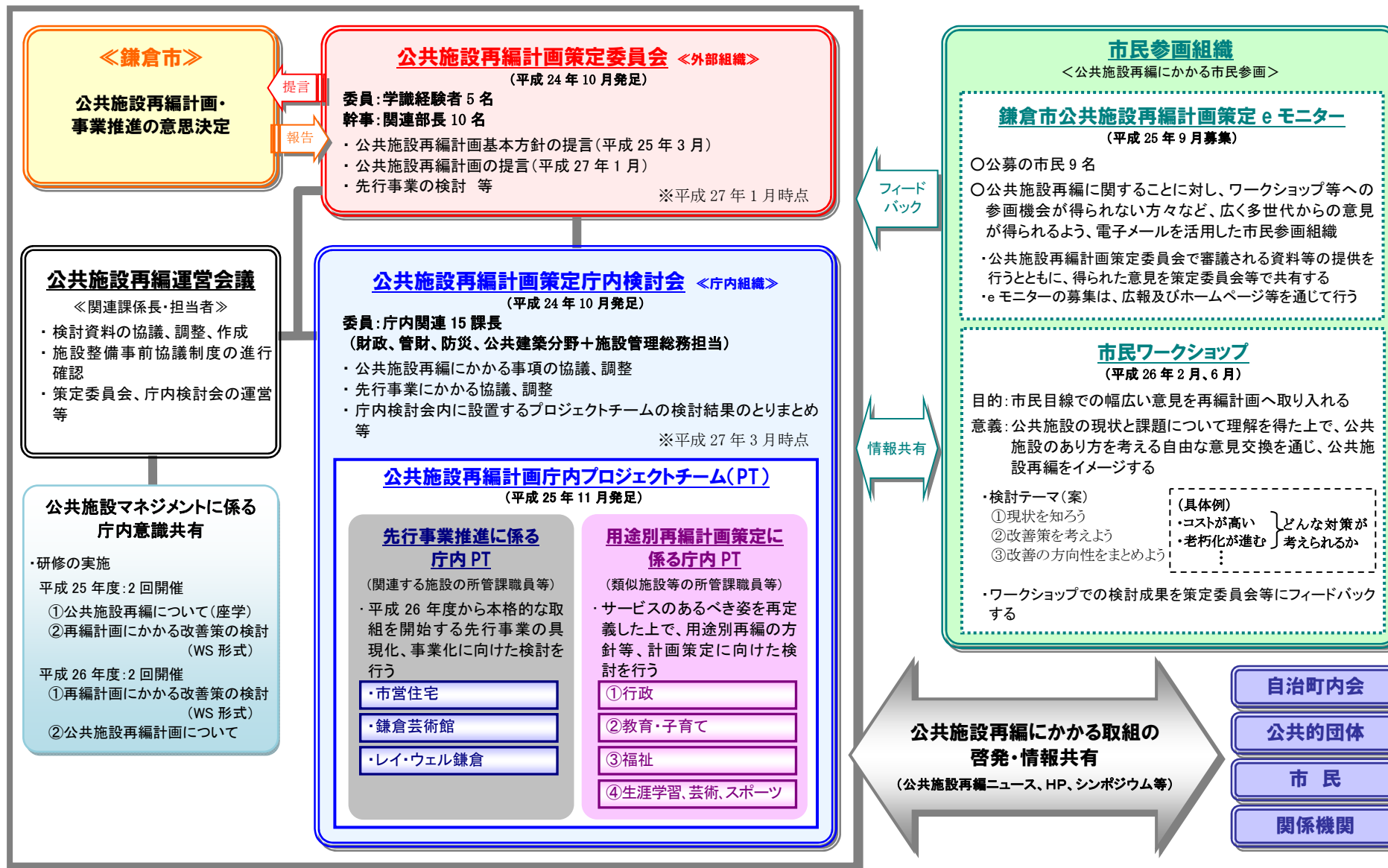
別表1

会長	経営企画部次長
副会長	経営企画課担当課長
委員	行革推進課長
委員	財政課長
委員	管財課長
委員	危機管理課長
委員	地域のつながり推進課長
委員	こどもみらい課長
委員	福祉総務課長
委員	都市整備総務課長
委員	建築住宅課担当課長
委員	下水道河川課担当課長
委員	再開発課担当課長
委員	教育総務課長
委員	消防総務課長

別表2

課等名	人数
経営企画課	3名
財政課	各1名
管財課	
こどもみらい課	
都市整備総務課	
建築住宅課	
教育総務課	

図表 公共施設再編計画策定検討推進体制



資料4-2 策定経緯

(1) 鎌倉市公共施設再編計画策定委員会

		開催日	審議事項
平成 24 年度	第1回	平成24年10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市公共施設再編にかかる取組経緯と体制について ・今年度の検討内容について ・ロードマップ(案)について ・鎌倉市公共施設の実態について
	第2回	平成24年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市公共施設再編計画基本方針(素案)について ・モデル事業の検討について
	第3回	平成25年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の進捗状況について ・鎌倉市公共施設再編計画基本方針(案)について ・シンポジウムについて ・意見公募手続きについて
	第4回	平成25年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見公募手続きの結果について ・庁内意見照会の結果について ・鎌倉市公共施設再編計画基本方針について
平成 25 年度	第5回	平成25年7月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度の検討体制と取組内容について
	第6回	平成25年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市公共施設再編計画策定eモニターについて ・再編計画の検討内容について ・モデル事業抽出について
	第7回	平成25年10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・再編計画の検討内容について ・モデル事業抽出の考え方について ・事前協議制度について
	第8回	平成25年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・再編計画の検討内容について ・市民アンケート・市民ワークショップについて
	第9回	平成26年3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・再編効果の試算について ・先行事業について
平成 26 年度	第10回	平成26年7月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市公共施設再編計画の構成(案)と全体方針について ・施設分類別の再編計画(案)について
	第11回	平成26年11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・意見公募の結果及び意見に対する市の考えについて ・鎌倉市公共施設再編計画(素案)の変更について
	第12回	平成27年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市公共施設再編計画(案)について

(2) 策定経緯一覧

	月日	策定委員会	庁内検討会	取組
平成24年度	4月1日			経営企画課内に公共施設再編推進担当設置
	5月1日			広報かまくら5月1日号(公共施設白書について)
	8月15日			広報かまくら8月15日号(公共施設の更新問題について)
	8月28日			職員研修(公共施設マネジメント)(62名参加)
	9月27日			鎌倉市公共施設再編計画策定委員会条例の制定
	10月2日		第1回	→取組体制について、今年度の検討内容について 等
	10月4日			公共施設再編計画策定に向けた利用者アンケートの実施(～11月3日) ※資料4-3(1)参照
	10月12日		第2回	→第1回公共施設再編計画策定委員会配付資料の確認について 等
	10月23日	第1回		⇒今年度の検討内容について、鎌倉市公共施設の実態について 等
	11月9日		第3回	→第2回公共施設再編計画策定委員会配付資料の確認について 等
	11月20日			再編計画NEWS No.1発行(250部)
	11月21日	第2回		⇒鎌倉市公共施設再編計画基本方針(素案)について 等
	11月29日		第4回	→第2回公共施設再編計画策定委員会の開催報告について 等
	12月10日			公共施設再編計画策定に向けたアンケートの実施(～12月19日) ※資料4-3(2)参照
	12月19日			職員研修(ワークショップ形式)(32名参加)
	12月21日		第5回	→鎌倉市公共施設再編計画基本方針(案)について 等
	12月28日			再編計画NEWS No.2発行(250部)
	1月1日			広報かまくら1月1日号(公共施設再編の取組について他)
	1月11日		第6回	→第3回公共施設再編計画策定委員会配付資料の確認について 等
	1月21日	第3回		⇒鎌倉市公共施設再編計画基本方針(案)について 等
1月28日			鎌倉市公共施設再編計画基本方針(案)の意見公募(～2月26日)	
2月2日			公共施設のあり方を考えるシンポジウムの開催 ※資料4-5(1)参照	
2月18日			再編計画NEWS No.3発行(250部)	
2月22日		第7回	→第3回公共施設再編計画策定委員会の開催報告について 等	
3月18日		第8回	→第4回公共施設再編計画策定委員会配付資料の確認について 等	
3月27日	第4回		⇒鎌倉市公共施設再編計画基本方針について 「鎌倉市公共施設再編計画基本方針」提言	
平成25年度	4月23日			鎌倉市公共施設再編計画基本方針 策定
	5月1日			広報かまくら5月1日号(基本方針の概要紹介)
	5月9日			再編計画NEWS No.4発行(250部)
	5月22日			鎌倉駅地下道「ギャラリー50」におけるパネル展示(～5月28日)
	6月5日			鎌倉市公共施設再編計画基本方針ダイジェスト版 発行
	7月16日	第5回		⇒平成25年度の検討体制と取組内容について 等
	7月23日		第9回	→第5回公共施設再編計画策定委員会の内容報告について 等
	8月23日			再編計画NEWS No.5発行(250部)
	9月1日			鎌倉市公共施設再編計画策定eモニターの募集(～9月20日)
	9月24日	第6回		⇒モデル事業抽出について 等
	10月4日			職員研修(公共施設の更新問題)(42名参加)
	10月8日			鎌倉市公共施設再編計画策定eモニターの登録
	10月29日			マンガでわかる公共施設再編 発行(2,000部) ※資料4-6参照
	10月30日	第7回		⇒モデル事業抽出の考え方について、事前協議制度について 等
	11月1日			広報かまくら11月1日号(マンガでわかる公共施設再編)
	11月6日		第10回	→事前協議制度について、庁内プロジェクトチームについて 等
11月20日			第1回庁内プロジェクトチーム(教育・子育て)	
11月21日			第1回庁内プロジェクトチーム(福祉) 第1回庁内プロジェクトチーム(生涯学習・芸術・スポーツ)	
11月22日			第1回庁内プロジェクトチーム(行政)	
11月28日	第8回		⇒市民アンケート・市民ワークショップについて 等	

	月日	策定委員会	庁内検討会	取組
平成25年度	12月17日			第2回庁内プロジェクトチーム(教育・子育て) 第2回庁内プロジェクトチーム(生涯学習・芸術・スポーツ)
	12月18日			第2回庁内プロジェクトチーム(行政) 第2回庁内プロジェクトチーム(福祉)
	12月24日			再編計画NEWS No.6発行(250部)
	1月9日		第11回	→レイ・ウェル鎌倉の廃止について、用途別庁内プロジェクトチームの検討状況について等
	1月20日			職員研修(ワークショップ形式)(18名参加) 第3回庁内プロジェクトチーム(行政) 第3回庁内プロジェクトチーム(福祉)
	1月27日			第3回庁内プロジェクトチーム(教育・子育て) 第3回庁内プロジェクトチーム(生涯学習・芸術・スポーツ)
	2月1日			平成25年度 市民ワークショップ(1日目)
	2月8日			平成25年度 市民ワークショップ(2日目) ※資料4-4(1)参照
	2月14日			第4回庁内プロジェクトチーム(教育・子育て) 第4回庁内プロジェクトチーム(生涯学習・芸術・スポーツ)
	2月21日			第4回庁内プロジェクトチーム(行政) 第4回庁内プロジェクトチーム(福祉)
	2月26日			再編計画NEWS No.7発行(250部)
	3月3日			第5回庁内プロジェクトチーム(行政) 第5回庁内プロジェクトチーム(教育・子育て) 第5回庁内プロジェクトチーム(福祉) 第5回庁内プロジェクトチーム(生涯学習・芸術・スポーツ)
	3月5日		第12回	→公共施設再編の具体的なコスト削減方策と効果について等
	3月14日			公共施設再編計画市民webアンケートの実施(～3月23日) ※資料4-3(3)参照
	3月26日	第9回		⇒再編効果の試算について、先行事業について等
平成26年度	5月27日		第13回	→平成26年度の検討項目とスケジュールについて等
	6月2日			職員研修(ワークショップ形式)(31名参加)
	6月21日			平成26年度 市民ワークショップ(1日目)
	6月28日			平成26年度 市民ワークショップ(2日目) ※資料4-4(2)参照
	7月7日		第14回	→公共施設再編計画の検討状況について等
	7月28日	第10回		⇒鎌倉市公共施設再編計画の構成(案)と全体方針について等
	9月17日			鎌倉市公共施設再編計画(素案)の意見公募(～10月16日)
	9月24日			再編計画NEWS No.8発行(1,000部)
	10月1日			公共施設再編計画(素案)説明会(深沢学習センター)(8名参加)
	10月2日			公共施設再編計画(素案)説明会(腰越学習センター)(8名参加)
	10月3日			公共施設再編計画(素案)説明会(玉縄学習センター分室)(10名参加)
	10月5日			公共施設再編計画(素案)説明会(本庁舎)(13名参加)
	10月6日			公共施設再編計画(素案)説明会(大船再開発事務所)(6名参加)
	10月29日		第15回	→意見公募の結果及び意見に対する市の考え方について等
	11月12日	第11回		⇒鎌倉市公共施設再編計画(素案)の変更について等
	11月23日			公共施設再編計画市民シンポジウムの開催(68名参加) ※資料4-5(2)参照
	12月25日		第16回	→鎌倉市公共施設再編計画(案)について等
	12月26日			再編計画NEWS No.9発行(250部)
	1月27日	第12回		⇒鎌倉市公共施設再編計画(案)について等 「鎌倉市公共施設再編計画」提言
	2月4日		第17回	→鎌倉市公共施設再編計画(案)について等
3月17日		第18回	→鎌倉市公共施設再編計画について等	
3月20日			職員研修(鎌倉市公共施設再編計画について)	

資料4-3 アンケート調査

(1) 公共施設再編計画策定に向けた利用者アンケート調査（平成24年度実施）

① 実施方法

調査の目的：平成24年度に鎌倉市公共施設再編計画基本方針を策定するにあたり、公共施設の利用実態を把握することを目的に実施しました。

調査の期間：平成24年10月4日(木)～11月3日(土)まで

調査の対象：施設利用者

調査の方法：施設にアンケート用紙を設置する方式
(30カ所)

調査の内容：施設ごとに、利用者年代、利用頻度、利用目的などを調査

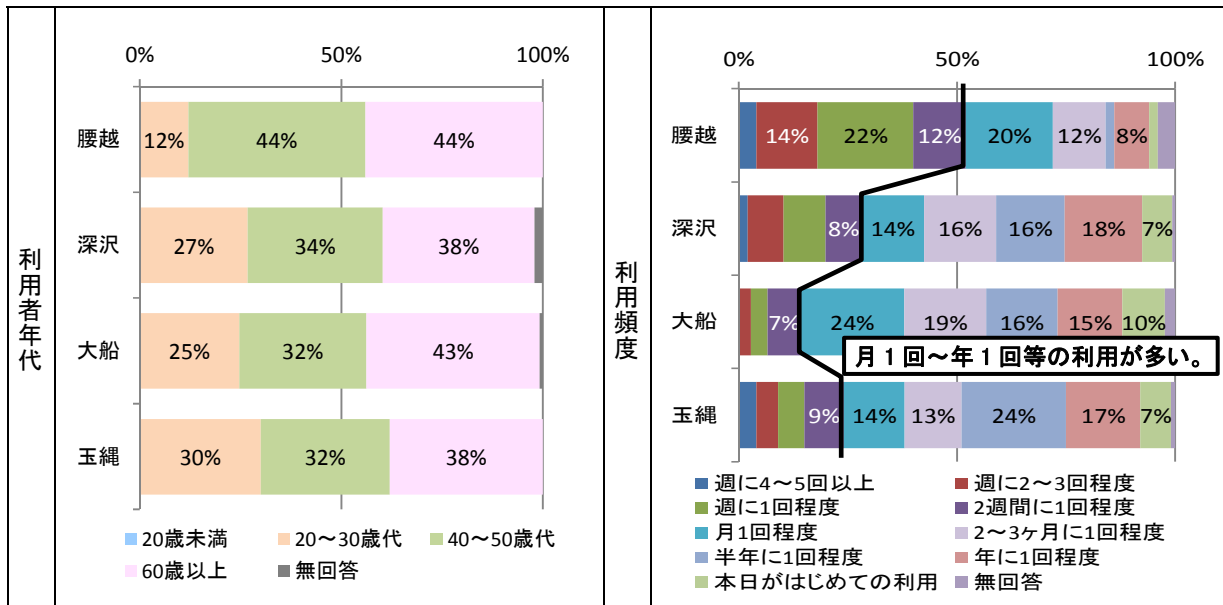
回答者数：3,932人

アンケート対象施設と回収数

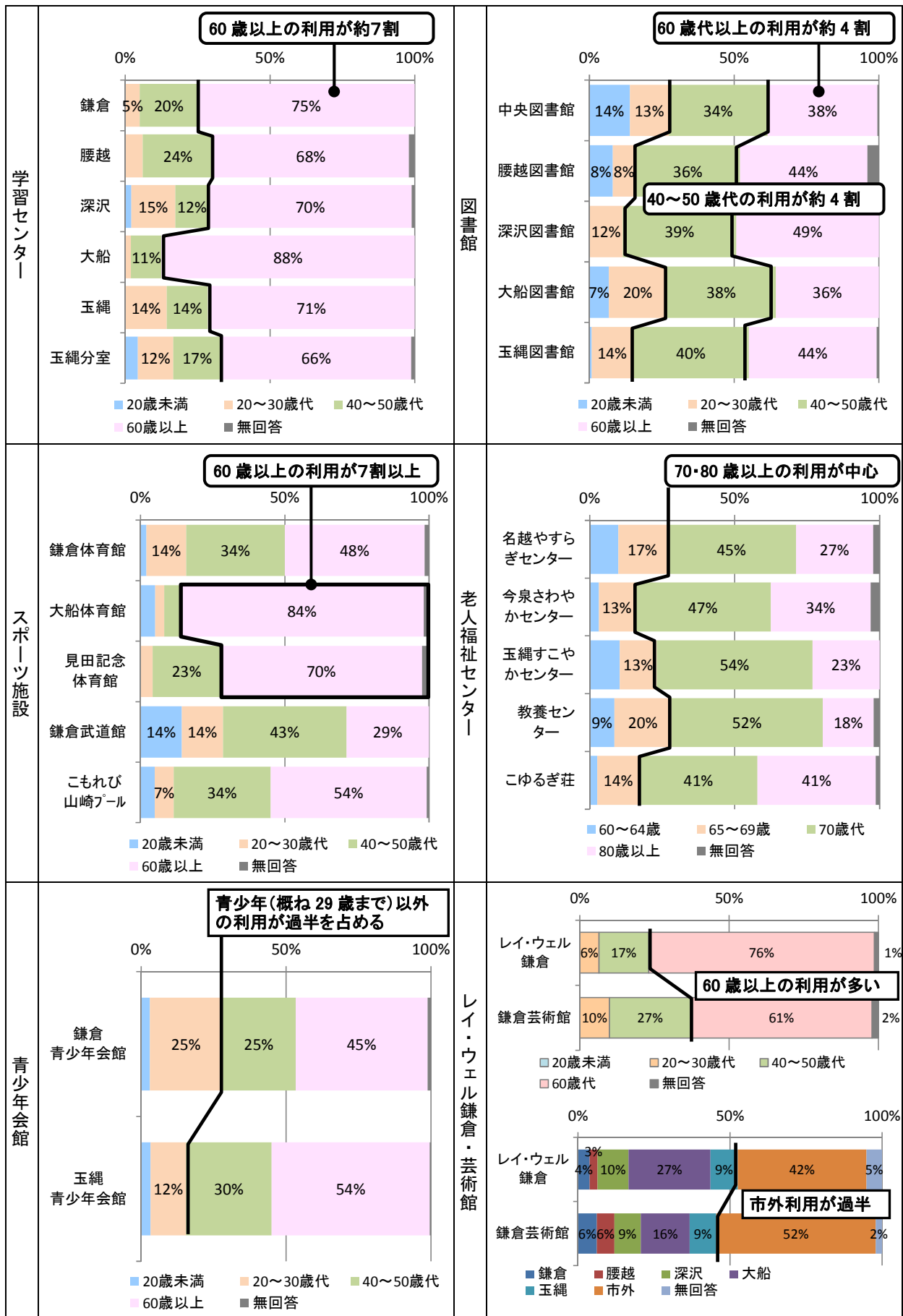
アンケート対象施設		回収数
行政センター (腰越、深沢、大船、玉縄)	支所	552
	図書館	371
	学習センター	504
鎌倉生涯学習センター		40
玉縄学習センター分室		163
中央図書館		208
青少年会館	鎌倉	165
	玉縄	213
福祉センター	鎌倉市社会福祉協議会	92
老人福祉センター	名越やすらぎセンター	132
	今泉さわやかセンター	32
	玉縄すこやかセンター	213
	教養センター	199
	こゆるぎ荘	76
レイ・ウェル鎌倉		78
鎌倉芸術館		244
スポーツ施設	鎌倉体育館	196
	大船体育館	159
	見田記念体育館	166
	鎌倉武道館	7
	こもれび山崎温水プール	122
合計		3,932

② 調査結果の概要

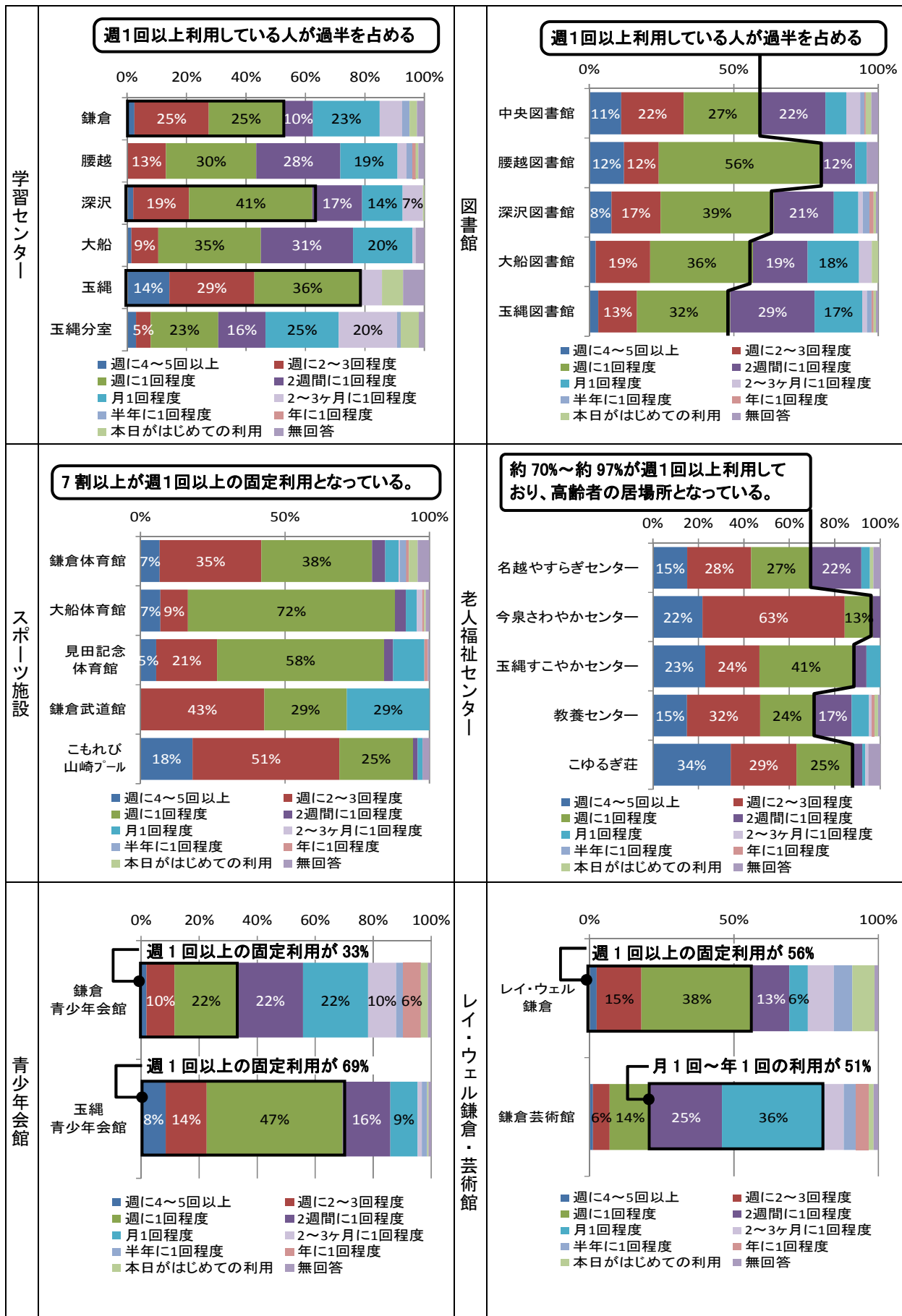
■支所の利用者年代、利用頻度



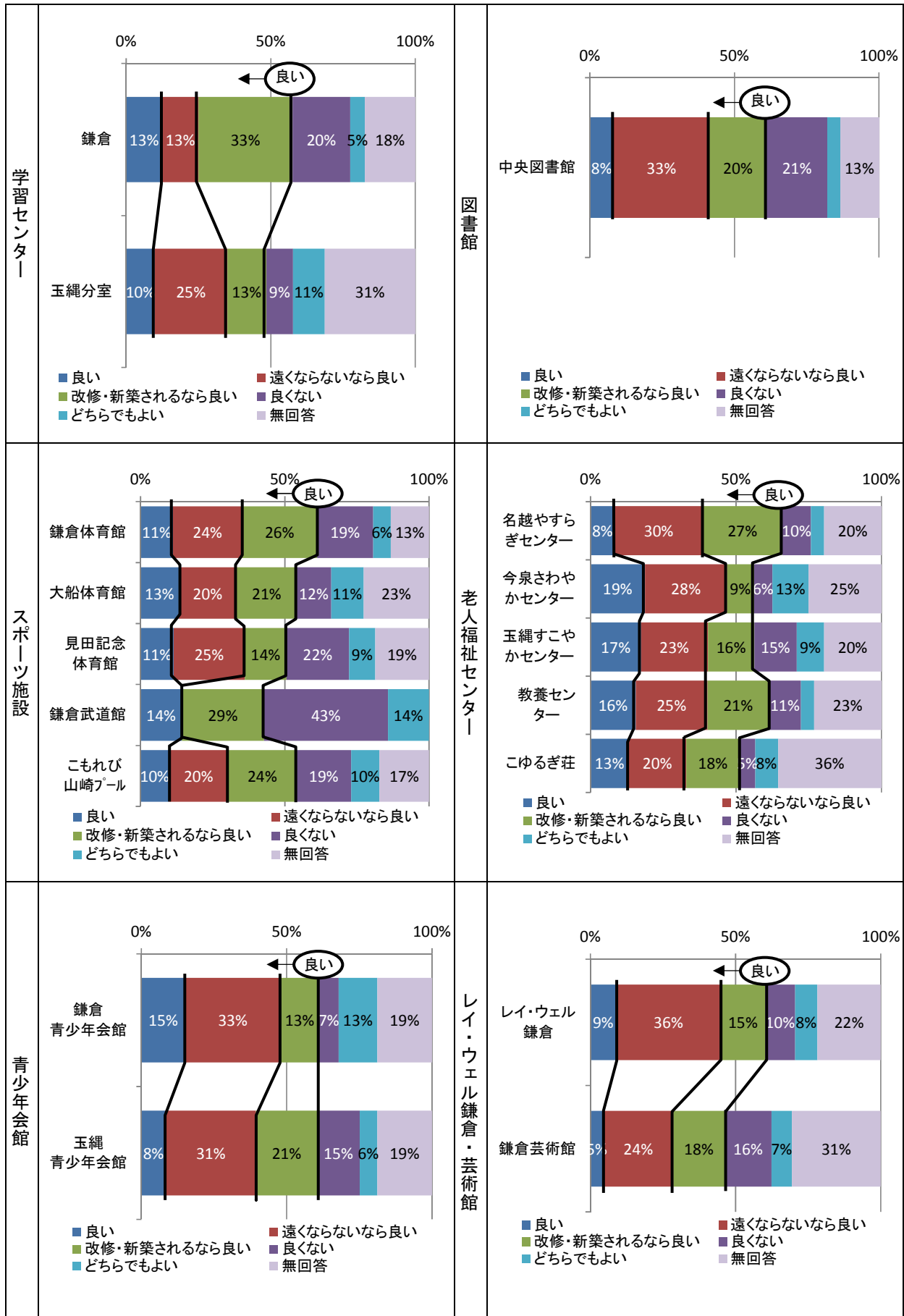
■支所以外の施設の利用者年代



■支所以外の施設の利用頻度



■将来のあり方 <他施設（学校等）との複合化など>



(2) 公共施設再編計画策定に向けたアンケート調査（平成24年度実施）

① 実施方法

調査の目的：平成24年度に鎌倉市公共施設再編計画基本方針を策定するにあたり、市民の公共施設の利用状況や公共施設に対する意識などを確認することを目的に実施しました。

調査の期間：平成24年12月10日(月)～12月19日(水)まで

調査の対象：平成24年12月1日現在、本市在住の18歳以上の方から2,000人を無作為抽出

調査の方法：郵送方式

回答者数：828人（回答率41.4%）

② 調査結果の概要

■回答者の属性

【性別】

	回答数	割合
男	366	44.2%
女	456	55.1%
無回答	6	0.7%
合計	828	100.0%

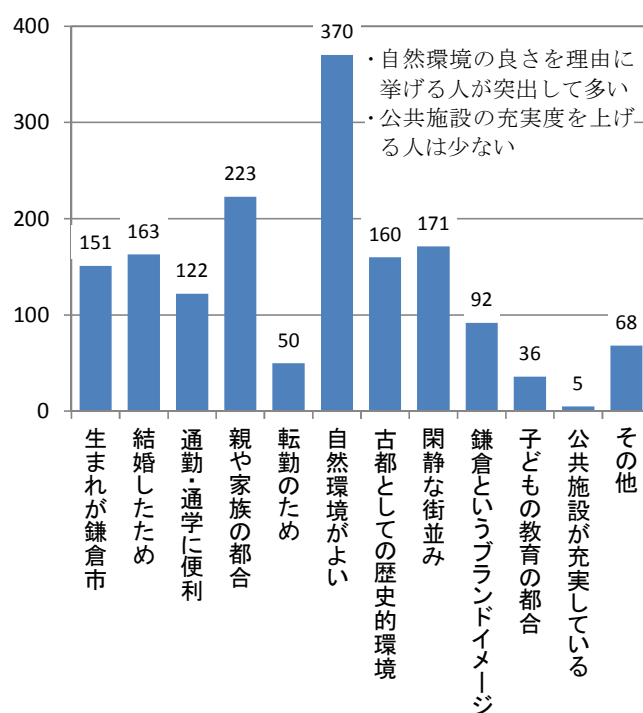
【年齢】

	回答数	割合
10歳代	7	0.8%
20歳代	40	4.8%
30歳代	105	12.7%
40歳代	138	16.7%
50歳代	113	13.6%
60～64歳	90	10.9%
65～69歳	94	11.4%
70歳代	167	20.2%
80歳以上	69	8.3%
無回答	5	0.6%
合計	828	100.0%

【居住地域】

	回答数	割合
鎌倉地域	223	26.9%
腰越地域	154	18.6%
深沢地域	138	16.7%
大船地域	158	19.1%
玉縄地域	145	17.5%
無回答	10	1.2%
合計	828	100.0%

■鎌倉市に住む理由（3つまで回答可）

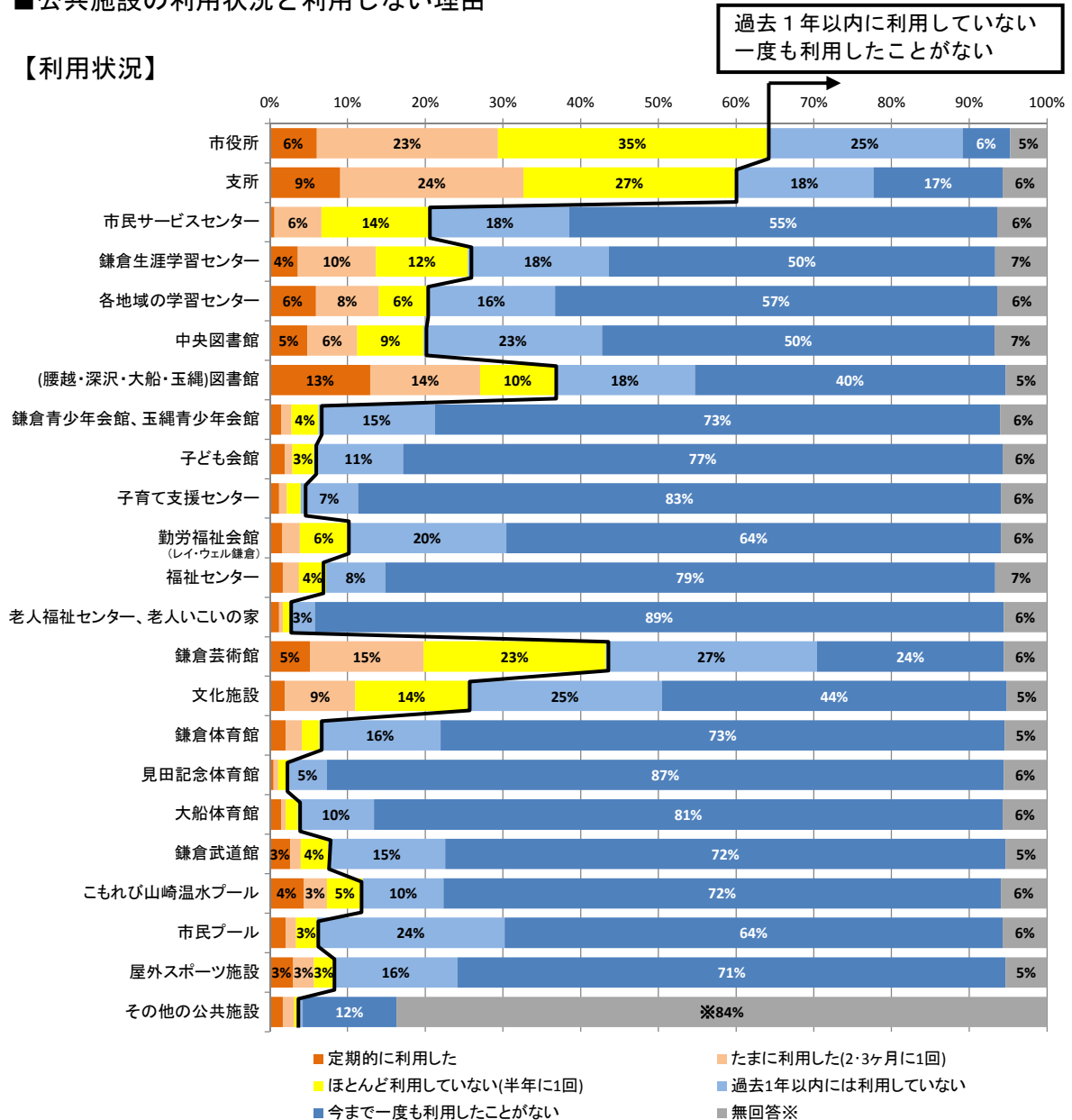


その他の回答

- ・息子夫婦・娘夫婦と同居、近居のため
- ・社宅があるため
- ・親が建てた家がある、親が住んでいたから
- ・子どもの頃から住んでいる・育ちが鎌倉・代々住んでいるため
- ・配偶者が鎌倉出身、配偶者の実家に近い
- ・事業のため、自営のため（職住近接）、就職のため
- ・海の遊びが好き・海が好き・海が見える所
- ・作品制作・発表の場として
- ・土地を探していて条件（希望金額、駅からの近さ等）に合った、分譲地に当たった
- ・物価の安さ、利便性がよい、住みやすさ、環境と家賃のバランス
- ・友人が多く住んでいるため
- ・交通の便が良い、大船駅まで歩けるため
- ・地域の安全性、駅前の下町感、大船駅周辺の活気、人の雰囲気
- ・あこがれ 等

■ 公共施設の利用状況と利用しない理由

【利用状況】



※その他公共施設の無回答には、施設名記入無しを含む

【あまり公共施設を利用しない理由】

複数回答可

	回答数	割合
①利用する必要がない	577	69.7%
②利用料金が低い	13	1.6%
③自分の希望時間に施設を利用できない	100	12.1%
④施設までのアクセスが不便である	183	22.1%
⑤他市の同種の施設を利用している	51	6.2%
⑥民間の同種の施設のサービスの方が良い	50	6.0%
⑦その他	64	7.7%
無回答者(全て該当無含む)	110	13.3%
本設問の回答者数	718	86.7%
回答者数	828	100.0%

アクセスや利用時間の不便さよりも、公共施設を利用する必要がないとの回答が多い。

※割合はアンケート回答者数828人に対する値

■今後の公共施設のあり方について

【公共施設のあり方に関する今後の方策】

複数回答可

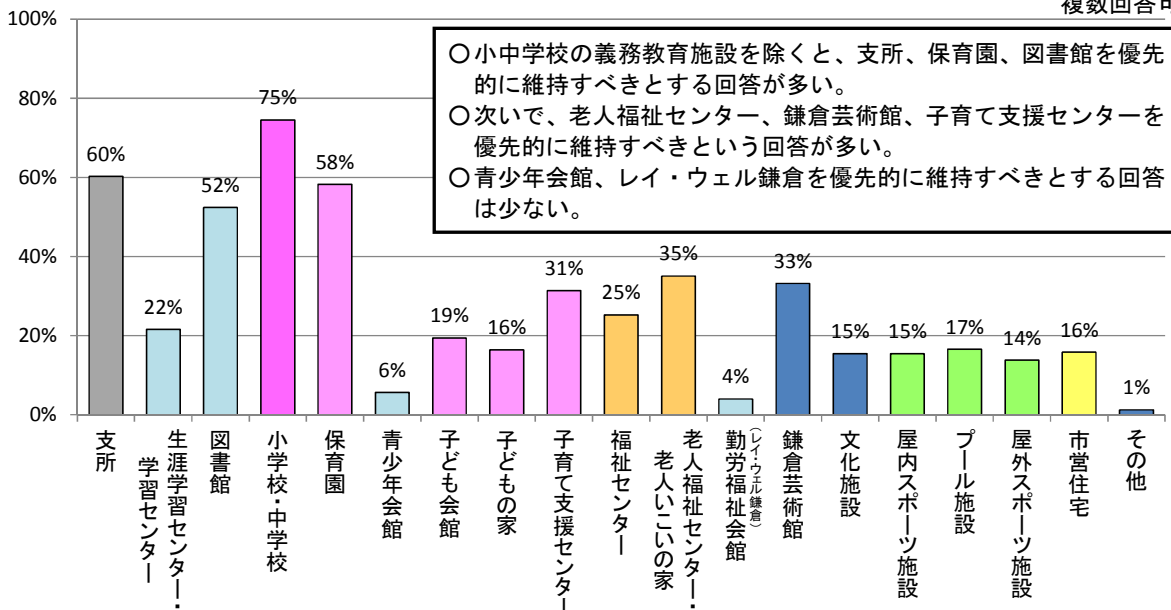
	回答数	割合
①現状施設の維持管理を優先	89	10.7%
②集約・複合化	486	58.7%
③広域連携・共同運用	236	28.5%
④民間施設の活用	329	39.7%
⑤民間活力の活用	318	38.4%
⑥これまで通り新設・更新を行う	68	8.2%
⑦よくわからない	65	7.9%
無回答者(全て該当無含む)	41	5.0%
本設問の回答者数	787	95.0%
回答者数	828	100.0%

- 現在ある施設の統廃合や施設機能の集約化・複合化を行うことで、施設数を減らして施設の再編をするとの回答が最も多い。
- 次いで、民間施設の活用や、民間のノウハウや資金等民間活力の活用が多い。
- 近隣自治体との広域連携や共同運用すべきとの回答も多い。
- 「現状施設の維持管理を優先」、「これまで通り新設・更新を行う」の回答は少ない。

※割合はアンケート回答者数828人に対する値

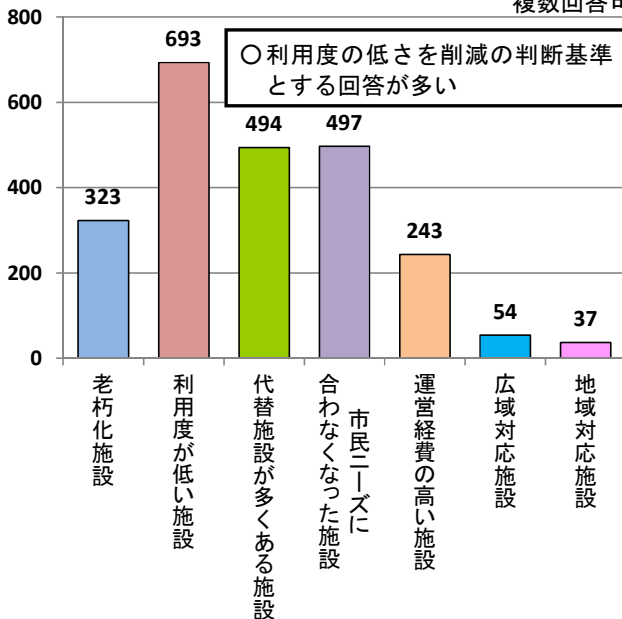
【優先的に維持すべき施設について】

複数回答可



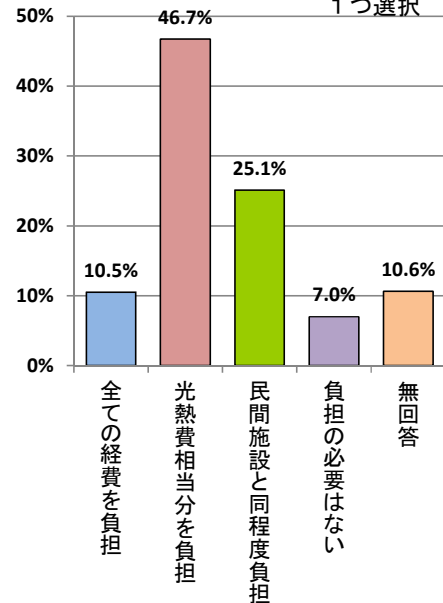
【削減しても良いと考える施設について】

複数回答可



【受益者負担について】

1つ選択



(3) 公共施設再編計画市民 web アンケート調査（平成 25 年度実施）

① 実施方法

調査の目的： 公共施設再編計画の策定にあたり、施設ごとに考えられる具体的なコスト削減方策や今後の施設のあり方についての意見を把握することを目的に実施しました。

調査の期間： 平成 26 年 3 月 14 日(金)から 3 月 23 日(日)まで

調査の対象： web リサーチ会社の登録者 2,243 人（鎌倉市在住の 18 歳以上の方）

調査の方法： web アンケート形式

※公共施設の課題や再編の必要性、各施設のコストデータを示し設問

回答者数： 622 人（回答率 27.7%）

② 調査結果の概要

■回答者の属性

【性別】

	回答数	割合
男性	287	46.1%
女性	335	53.9%
合計	622	100.0%

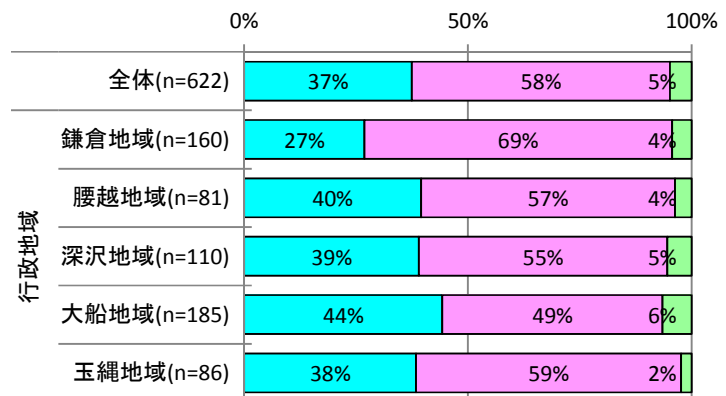
【年齢】

	回答数	割合
18歳～20歳代	69	11.1%
30歳代	119	19.1%
40歳代	170	27.3%
50歳代	128	20.6%
60歳代	93	15.0%
70歳以上	43	6.9%
合計	622	100.0%

【居住地域】

	回答数	割合
鎌倉地域	160	25.7%
腰越地域	81	13.0%
深沢地域	110	17.7%
大船地域	185	29.7%
玉縄地域	86	13.8%
全体	622	100.0%

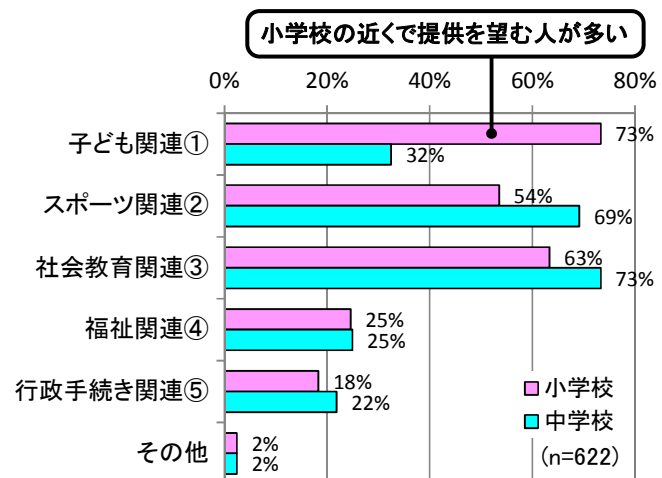
■支所等の窓口サービスについて望ましいと思うもの（1つ選択）



■現在と同様に、支所、市民サービスコーナーで継続する

■コンビニエンスストア等で、戸籍等証明書の交付等のサービスが受けられるようになれば、窓口サービスは市役所本庁舎のみで良い

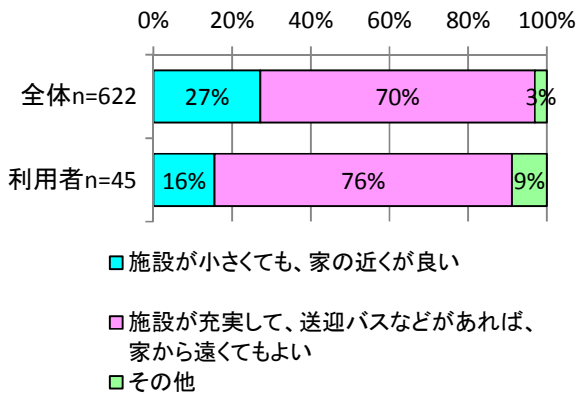
■学校の近くで提供されると良いと思うサービス（小学校・中学校それぞれ最大3つまで選択）



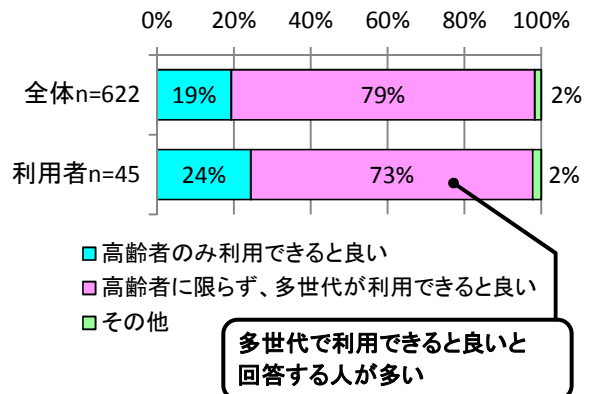
- ① 保育園、子どもの家、子ども会館、青少年会館等
- ② 体育館、プール
- ③ 図書館、学習センター等
- ④ 老人福祉センター、デイサービス等
- ⑤ 市役所窓口、支所窓口等

■老人福祉センターについて

【立地について望ましいと思うもの】



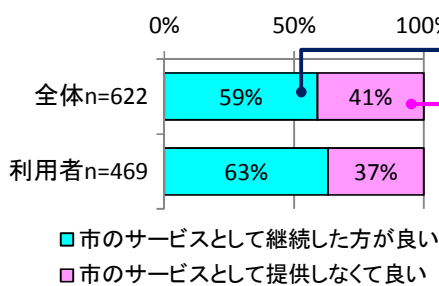
【施設の利用者として望ましいと思うもの】



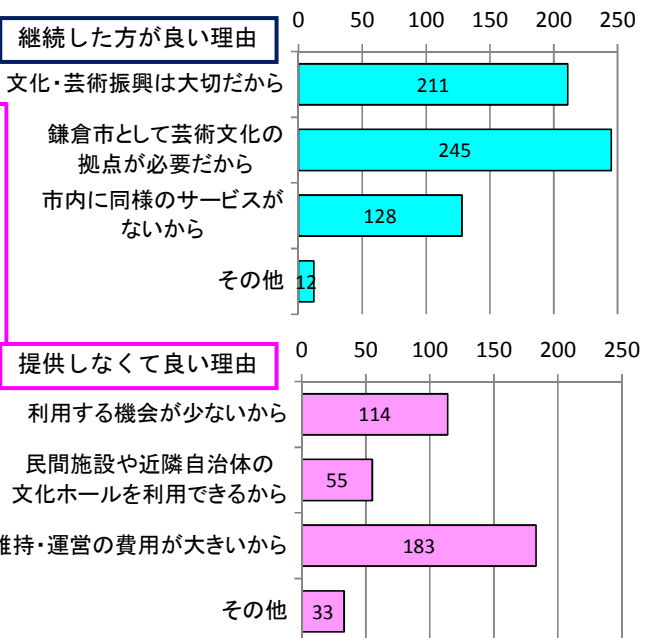
■今後のあり方として望ましいと思うもの

【鎌倉芸術館】

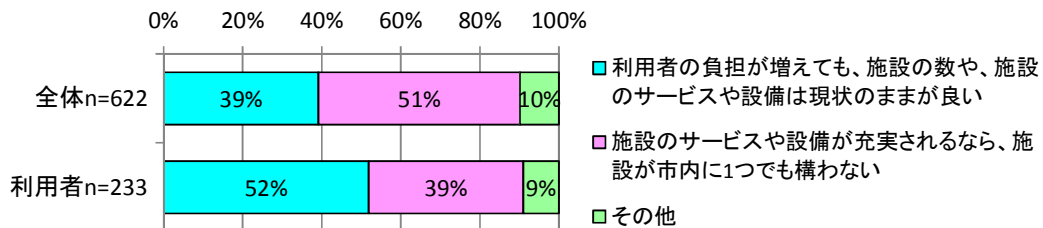
サービスの継続



理由（複数回答可）

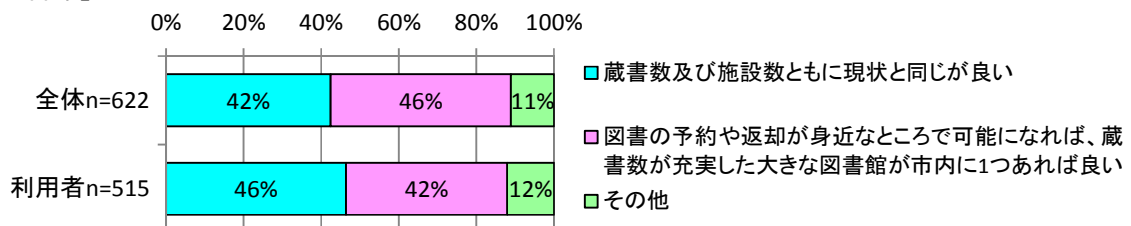


【体育館】



利用者は現状維持を望む人がやや多い

【図書館】



資料4-4 市民ワークショップ

(1) 平成25年度実施

公共施設再編の概念や取組を、再編シミュレーションを通して体感的に把握することにより、参加した市民との認識の共有化を図ることを目的に開催しました。

① 開催概要

日時 第1回 平成26年2月1日(土) 9時30分～12時00分

第2回 平成26年2月8日(土) 9時30分～12時00分

場所 市役所本庁舎2階 全員協議会室

参加者 1日目 36名(10代1人、20代4人、40代6人、50代5人、60代9人、70代11人)

2日目 20名(10代1人、20代2人、40代4人、50代3人、60代4人、70代6人)

※無作為で抽出した市民1,500名を対象に通知し、申込のあった47名を参加予定者とした。

② 開催結果

[2日目]

■公共施設再編の取組状況の報告

「マンガでわかる公共施設再編の取組」(平成25年10月発行)を使い、鎌倉市の公共施設再編の取組状況を報告しました。

■先進事例の紹介「発想転換の公共施設再編」

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員である南学氏から、国内外の先進事例をご紹介いただき、図書館を中心に、施設と機能を切り分け、必要な機能をどの場所で提供すべきかを考えることが重要であることなどをお話いただきました。



■サービスと施設について考える

6つの班(各6名)に分かれて意見交換を行い、鎌倉市の公共施設について、施設(建物)とサービス(機能)を切り離し、①場所、②費用負担、③市民ニーズとのズレの3つの視点で評価しました。

①公共サービスの提供場所

②公共サービスの費用負担

③公共サービスの市民ニーズとのズレ

公共施設の内容を、施設カードとサービスカードで表し、評価軸上のどこに、サービスが位置付けられるかを、各班で検討し、配置の理由を付箋に書いて貼ってもらう。



【意見交換の概要】

①場所		<p>できるだけ「<u>住まい</u>」の近くで提供すべき施設やサービスはどれですか？</p> <p>逆に、必ずしも<u>近く</u>になくても構わない施設やサービスはどれですか？</p>
複数の班から出た意見		<ul style="list-style-type: none"> 子どもが利用するサービスは住まいの近く（通いやすい場所）で提供すべき 文化ホールや博物館などは、日常的な利用頻度が比較的低いため、住まいの近くでなくとも構わない
特徴的な意見		<ul style="list-style-type: none"> 行政センターは、駅の近くなど便利な場所が望ましい 保育園は、保護者の通勤もあるため、なるべく利便性が高い場所が良い 高齢者福祉サービスは、送迎バスなどの環境整備も重要 図書サービスや放課後の子どもの居場所を提供するサービスは小学校の近くが望ましい
②費用負担		<p>できるだけ利用者に負担を求めず、<u>市の税金</u>を使って提供すべき施設やサービスはどれですか？</p> <p>逆に、できるだけ<u>利用者に負担を求め</u>るべき施設やサービスはどれですか？</p>
複数の班から出た意見		<ul style="list-style-type: none"> 必要不可欠な行政事務、学校教育、障害者福祉サービスは税金を使って提供すべき 社会教育、スポーツ、文化など、趣味で利用する、サービスを受けたい人が利用する、民間でも提供できるサービスは、利用者に負担を求めべき
特徴的な意見		<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理は行政が負担し、サービスは民間で提供する方法もある 学校教育や高齢者及び障害者への福祉サービスは、利用者の負担が高くなってはいけない 学生割引などのサービスがあっても良い 図書サービスは、内容によって利用者が負担すべきサービスもある
③市民ニーズとのズレ		<p>現在、市が提供している行政サービスの内容と、<u>市民のニーズとズレ</u>ている施設やサービスはどれですか？</p>
特徴的な意見		<ul style="list-style-type: none"> 学校では地域性を利用したサービス提供ができるとよい（空き教室で行政窓口など） 子育てサービスは複数あるが、縦割りの弊害で施設が分かれている 子どもの遊び場が不足している スポーツ、診療サービスは民間施設でも利用できる（民間のサービスを利用したい） 高齢者福祉サービスは、中途半端な機能であると感じるため見直しが必要 保育園は、待機児童がいるためサービスの拡充や改善が必要 勤労福祉会館（レイ・ウェル鎌倉）の役割がわからない トイレ等の設備が古く汚い

[2日目]

■再編シミュレーション

1日目と同じ班で、大船駅周辺を想定した再編シミュレーションを実施しました。

【検討ルール】

役割	割り当てられた立場（学生、独身会社員、子育て夫婦、夫婦、老夫婦、単身高齢者）で意見交換
対象地域	大船駅から半径1kmの範囲の代表的な市民利用施設を対象
設定時期	10から20年後（少子化で各校3教室分の空きが発生する想定）
検討条件	各施設のトータルコストをポイントに置き換え、全体20000ポイントを10000ポイントに削減する

第2回の意見交換風景



対象地域（大船駅周辺）と公共施設の配置



【各班の再編提案の概要】

班	コンセプト	再編の考え方	主な再編提案
1	学校を活用しよう	<ul style="list-style-type: none"> 学校は適度に分散しており活用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターの統合 体育館と武道館の統合 スポーツや文化サービスは、個人の趣味なので利用料を値上げ サービスを集約化する代わりにコミュニティバスの運行
2	私も混ぜて	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまで使える施設・交流する施設 自分にとって気持ちの良いまち 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館は民間施設を利用 玉縄行政センターは大船や駅ビル内を利用 学校で学童保育を実施 文化ホールは市で提供する必要は無い 市民活動で日々利用するサービスの料金の値上げは必要ない 公だけでなく民の活用
3	世代間交流と利便性	<ul style="list-style-type: none"> サービスを減らさず、老朽化した施設を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターの統合 体育館と武道館を統合 学校の複合化 子育てサービスは駅近くに配置 スポーツや福祉の利用者負担を増やす
4	生活密着 バランスタウン 大船	<ul style="list-style-type: none"> 玉縄地域と大船地域のバランスを考慮 子育て関係をまとめる 関連サービスをまとめ、相乗効果を図る 駅よりも住まいの近くにサービス配置 趣味の活動は遠くてもOK 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に図書と子育てサービス（保育）を複合化（ただしセキュリティが重要） 社会教育（教養・趣味の講座）は遠くても利用しに行く 体育館と武道館を統合
5	ふれあいの街 大船	<ul style="list-style-type: none"> 子どもからお年寄りまでふれ合いのチャンスを増やす（見守りができる） 収益を考慮した料金設定 コンパクト化 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に子育てと福祉サービスを複合化 スポーツ、文化、社会教育サービスは、料金を見直す（学割、10回以上の利用で安くする等） ふれあいセンターの設置
6	鎌倉に自信を取り戻す！	<ul style="list-style-type: none"> 行政センターを核に機能拡充（機能統合） 子どもとお年寄りにやさしい、高齢者に配慮したサービス 図書館（蔵書）を駅近くに集中 無駄を減らす（跡地等の有効活用） ネーミングライツで財源確保 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者向けサービス拠点の設置 学校体育館の一般利用 行政センターで子育て支援（放課後児童の居場所） 小学校に保育園

(2) 平成 26 年度実施

平成 26 年 2 月開催の市民ワークショップに引き続き、公共施設の再編を進めるにあたり、市民目線での問題点、サービス向上に向けて望むこと、利害調整のポイントを把握すること等を目的に開催しました。

① 開催概要

日時 第 1 回 平成 26 年 6 月 21 日 (土) 13 時 30 分～17 時

第 2 回 平成 26 年 6 月 28 日 (土) 13 時 30 分～17 時

場所 市役所第 3 分庁舎 1 階 講堂

参加者 1 日目 33 人 (男 21 人・女 12 人、無作為 13 人・公募 20 人)

(30 代 2 人、40 代 8 人、50 代 4 人、60 代 8 人、70 代 11 人)

2 日目 29 人 (男 18 人・女 11 人、無作為 10 人・公募 19 人)

(30 代 1 人、40 代 8 人、50 代 3 人、60 代 7 人、70 代 10 人)

※無作為: 無作為で抽出した市民 1,000 人を対象に通知し、申込のあった 19 名を参加予定者とした。

公 募: ホームページと広報かまくらで周知し募集し、申込のあった 24 名を参加予定者とした。

② 開催結果

[1 日目前半]

■公共施設再編の取組状況の報告

鎌倉市の公共施設更新問題の現状と、公共施設再編の取組経緯、「公共施設再編計画基本方針」の概要を報告しました。

■先進事例の紹介「発想転換の公共施設再編」

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員である南学氏から、先進事例の紹介をしていただきました。

■サービスと施設について考える

3 つの地域に分かれて 6 つの班 (各班約 6 名) で意見交換を行い、鎌倉市の公共施設について、施設とサービスを切り離し、①場所、②費用負担の 2 つの視点で評価しました。

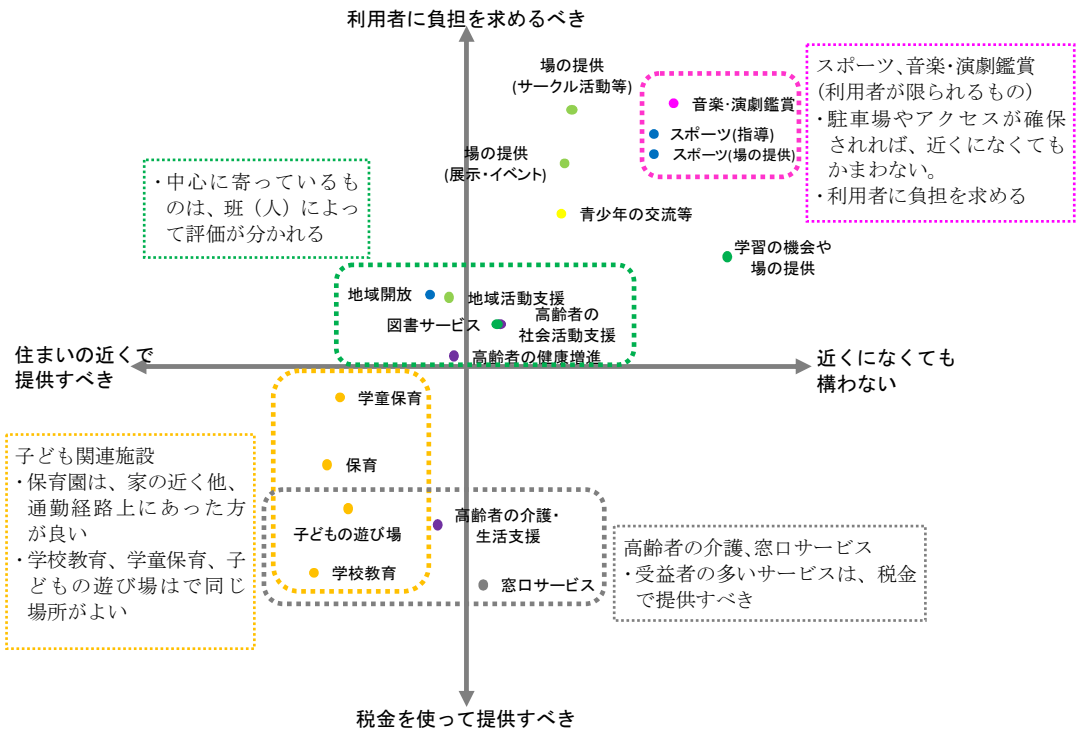


講義の様子



検討の結果

【サービスの提供場所と費用負担の評価の傾向（6つの班の平均）】



【1日目後半・2日目】

■再編シミュレーション

市域を鎌倉エリア、腰越・深沢エリア、大船・玉縄エリアの3エリアに分け、各エリア2グループ（計6グループ）で2日間にわたり検討を行いました。

【検討ルール】

役 割	割り当てられた立場（学生、独身会社員、子育て夫婦、夫婦、老夫婦、単身高齢者）で意見交換
設定時期	約20年後（少子化で各校3教室分の空きが発生する想定）
検討条件	各施設のトータルコストをポイントに置き換え、施設とサービスのトータルコストを削減する
検討する再編手法	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの廃止 ・サービスを移動し、サービス提供を行わない施設の廃止 ・廃止した施設の土地の売却、サービスの民営化・料金改定

【ポイントの設定】

	鎌倉エリア	腰越・深沢エリア	大船・玉縄エリア	合計
施設にかかるポイント	3,170	3,620	3,180	9,970
サービスにかかるポイント	2,210	1,640	2,160	6,010
合計	5,380	5,260	5,340	15,980

※目標は、施設にかかるポイント9,970の50%削減

【検討エリア】



検討の様子



発表の様子

各班の再編提案の概要

	班	コンセプト	再編の考え方	主な再編提案	削減ポイント
鎌倉エリア	1	減らせばよいつてもものじゃない	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り、子供たちが交流できるまち ・自然を大事にしたまち ・若い人たちが来なくなるまち ・文化を伝えられるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て、教育、高齢者施設は集約 ・スポーツ、文化施設は民間委託 	610/3170
	2	資産はスリムに付加価値サービスは民間活用	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺用地を民間利用で有効活用(表駅には拠点整備、旧警察用地も活用) ・寄付された文化施設は、収益施設化 ・学校の多機能化 ・県、国、民間の空き施設を活用する(特に市役所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所は県施設や民間ビルへ機能を分散 ・保育、高齢者施設は集約 ・図書館は各学校へ分散し、民間委託 ・スポーツ、文化施設は民間委託 ・消防施設は学校へ集約 ・窓口サービスや地域活動支援は民間委託 	2800/3170
腰越・深沢エリア	3	学校へ行こう全てのサービスがあります	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ教育保育サービスを集約 ・学校のプールはもったいない(使用頻度が低い) ・趣味サービスは民間委託でサービスアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政センターの統合、サービスは駅やコンビニへ移動 ・小学校、学童保育、保育、子どもの遊び場は同じ施設に集約 ・学校プール(授業も)は廃止、民間施設を利用 	2100/3620
	4	CO-WORKするフレンドシティ鎌倉	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところに多目的施設を分散 ・安心、安全なまちづくり ・行政と民間の協同作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と高齢者施設は、機能を統合 ・子ども会館は空き家を利用して、機能を地域に点在 ・市営住宅は民間委託して、家賃を支援 	1390/3620
大船・玉縄エリア	5	サービスの集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・施設サービスは集約化 ・代わりに空き家、バス、ITクラウドでネットワーク化 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政センターの統合、サービスは人の多い施設へ機械を設置 ・子ども会館は学校開放して、廃止 ・武道館と体育館の統合、消防も統合 ・交流施設は空き家を利用して、民間委託 ・市営住宅は民間委託して、空き家を活用 ・学校プールは廃止、民間施設を利用 	2280/3180
	6	ミニバスによる活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・機能の集約 ・施設の分散 ・民営化 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政センターの統合 ・学習の機会や場所の提供、スポーツは民間委託 ・市営住宅は売却または民間施設を活用 	910/3180

資料4-5 シンポジウム

(1) 公共施設のあり方を考えるシンポジウム

公共施設の現状や取り組みについて、市民の皆さまと情報を共有するとともに、今後の公共施設のあり方について共に考えていただくため、「公共施設のあり方を考える ～結論を先送りしない、次世代に向けた取り組み～」を開催しました。

日時 平成25年2月2日(土) 10時～12時

場所 鎌倉商工会議所地下ホール

参加者 79名

あいさつ「鎌倉市の抱える公共施設更新問題とは」



鎌倉市長 松尾 崇

鎌倉市では公共施設の老朽化が進んでおり、今後必要となる施設の維持・改修等にかかる多額の費用確保が課題であるという説明がありました。

このような鎌倉市が抱える「公共施設更新問題」を解決していくため、「危機感を共有していくこと」、「課題を先送りにしないこと」を基本姿勢として、スピード感を持って、課題解決に臨みたいという強い意志が示されました。

基調講演「公共施設マネジメントはなぜ必要か」～物理的崩壊と財政破たんを避ける道～

2012年12月に起きた中央自動車道笹子トンネル事故を背景に、インフラ施設を含めた公共施設等の老朽化が全国的な課題となっていることをご説明いただきました。

公共施設の更新問題については、早いうちから検討していかなければ、物理的崩壊によって市民の安全性が脅かされるとともに、全ての施設の更新需要に応えると地方自治体において財政的破綻が起きるということを問題提起され、先進的な取組事例の紹介とともに公共施設マネジメントの必要性をご説明いただきました。



東洋大学経済学部教授
根本 祐二氏

本市の取り組み状況「鎌倉市の公共施設再編の取り組み」

鎌倉市経営企画課担当課長下平より、公共施設を取り巻く現状として、公共施設白書の内容、公共施設再編計画策定に向けたアンケートおよび利用者アンケートの結果、策定中の公共施設再編計画基本方針のポイントについて説明を行いました。

パネルディスカッション「どうする？鎌倉市の公共施設」



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでは、パネリストから「公共施設に対する現状や取り組み」に対するご意見が述べられ、鎌倉市の公共施設や公共施設マネジメントの必要性について意見交換が行われました。

[パネリスト]

小松 幸夫氏 (早稲田大学創造理工学部 教授)

増井 玲子氏 (東洋大学 PPP 研究センターリサーチパートナー)

南 学氏 (鎌倉市政策創造専門委員、神奈川大学人間科学部 特任教授)

瀧澤 由人 (鎌倉市副市長)

公共施設のあり方を考えるシンポジウム チラシ

鎌倉市の未来を一緒に考えましょう

「これからの鎌倉市の公共施設を考える」

～結論を先送りにしない、次世代に向けた取り組み～

鎌倉市では、昭和30年代からの急激な人口増加を背景に、多くの公共施設を整備してきましたが、現在、これらの公共施設の老朽化が進んでおり、今後、多くの施設が改修や更新の時期を迎えます。

そこで、鎌倉市では、市が保有している公共施設（建築物）について、その機能や配置状況、利用状況や稼働状況などについて実態を把握し、市民の皆さんにも公共施設の現状を知っていただくために、平成24年3月に「鎌倉市公共施設白書」を作成し、現在、公共施設再編計画基本方針の策定に取り組んでいます。老朽化問題は、笹子トンネル事故で明らかになった通り、市民の生命財産の安全に直結する最優先のテーマです。

このような公共施設の現状や取り組みについて、市民の皆さまと情報を共有するとともに、今後の公共施設のあり方について共に考えていただく機会として、シンポジウムを開催します。

■基調講演

「公共施設マネジメントはなぜ必要か」

～物理的崩壊と財政破たんを避ける道～

東洋大学経済学部 教授

根本 祐二 氏

■パネルディスカッション

「どうする？鎌倉市の公共施設」

〔コーディネーター〕

東洋大学経済学部 教授 根本 祐二 氏

〔パネリスト〕

鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員

日時：平成25年 2月2日(土)

10:00～12:00

(開場 9:30)

場所：鎌倉商工会議所(地下ホール)

鎌倉市御成町17-29

入場無料(定員150名・先着順)

主催：鎌倉市

■お問い合わせ：鎌倉市 経営企画部 経営企画課 TEL: 0467-23-3000(内線2565)

E-mail: facility@city.kamakura.kanagawa.jp

公共施設のあり方を考えるシンポジウム

◆シンポジウム次第

1. 開会

2. あいさつ

鎌倉市長 松尾 崇

3. 基調講演

「公共施設マネジメントはなぜ必要か」

～物理的崩壊と財政破たんを避ける道～

東洋大学経済学部 教授 根本 祐二 氏



鎌倉市公共施設再編計画策定委員会

4. 本市の取り組み状況

「鎌倉市の公共施設再編の取り組み」

5. パネルディスカッション

「どうする？鎌倉市の公共施設」

〔コーディネーター〕

根本 祐二 氏(東洋大学経済学部 教授)

〔パネリスト(鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員)〕

小松 幸夫 氏(早稲田大学創造理工学部 教授)

増井 玲子 氏(東洋大学PPP研究センターリサーチパートナー)

南 学 氏(鎌倉市政策創造専門委員、神奈川大学人間科学部 特任教授)

瀧澤 由人 氏(鎌倉市副市長)

6. 質疑応答

◆会場案内図



◆アクセス

JR鎌倉駅より徒歩3分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

◆講演者プロフィール



根本 祐二 氏

東洋大学経済学部教授、東洋大学PPP研究センター長
1954年鹿児島県生まれ。1978年東京大学経済学部卒業後、日本政策投資銀行入行。地域開発部、米田ブルッキングス研究所客員研究員、設備投資研究所主任研究員、地域企画部長などを経て2006年、東洋大学経済学部教授に就任。専門は公民連携、地域再生。内閣府、国土交通省、東京都、横浜市などで公職多数。

(2) 公共施設再編計画市民シンポジウム

次の世代に過大な負担を残さない将来の公共施設のあり方について、市長自らその考え方を示し、市民の皆さんと共に公共施設の再編について理解を深めていくため、「公共施設再編計画市民シンポジウム」を開催しました。

日時 平成26年11月23(日)14~16時

場所 鎌倉商工会議所地下ホール

参加者 68名

プロローグ「公共施設再編計画策定のねらい」



鎌倉市長 松尾 崇

鎌倉市全体の財政と公共施設更新費用の見通しを踏まえると、財源を現状維持した場合でも全ての施設更新はできないこと、施設量を維持する場合は市民一人当たり負担の大幅な増加が見込まれることについて説明がありました。

そして「次の世代に過大な負担を残さない」ため、公共サービスのあり方の見直し、施設の規模・配置のあり方の見直し、施設の整備・運営の効率化・財源確保、具体化に向けた体制整備について、検討内容の説明がありました。

基調講演「インフラ崩壊時代に問われる市民の責任」



東洋大学経済学部教授
根本 祐二氏

東洋大学経済学部教授の根本祐二氏の基調講演では、日本におけるインフラ整備の経緯と現状の課題及び先進的な取組み事例の紹介がありました。

既存の公共施設・インフラが老朽化し、人命に関わる事故が起きている一方で、全ての更新財源は見込めず、公共施設・インフラの削減は不可避だと提示されました。ただし、できるだけサービスを落とさずに、最大限負担を引き下げる知恵はあると事例を用いて説明され、市民は次の世代の負担を考えるよう促しました。

パネルディスカッション「事例に基づく再編手法」

パネルディスカッションでは、パネリストから再編事例の紹介と合わせ、鎌倉市における活用の観点や実施上の行政・市民・民間の役割と連携について多様で示唆に富む提言がなされました。

パネルディスカッションの様子



パネリストの主なご意見



東洋大学 PPP研究センター
リサーチパートナー
増井 玲子氏

公共施設再編では大胆な決断が求められるが、同時に新しい可能性や魅力を作り出す、市民との共同作業でもあり、市民の皆さんにも前向きに取り組んでいただきたい。



早稲田大学
創造理工学部建築学科教授
小松 幸夫氏

単に建物の長寿命化をするだけでなく、維持管理費用を踏まえた利活用の検討が必要である。また、公共サービスの提供においては民間との連携が益々必要になってくる。



首都大学東京
都市環境学部
建築都市コース助教
李 祥準氏

これまでの建物とサービスは一体であるという公共サービスの認識を、行政・市民共に変える必要がある。行政は市民が検討できるような情報を示し、公共サービスの適正化に向けて合意形成を図る必要がある。

公共施設再編計画市民シンポジウム

～次の世代に負担を残さないために～

次の世代に過大な負担を残さない将来の公共施設のあり方について、市長自らその考え方を示し、市民のみならず共に公共施設の再編について理解を深めていくためのシンポジウムを開催します。

11月23日(日) 14時開演
鎌倉商工会議所 地下ホール

「公共施設再編計画 策定のねらい」

鎌倉市長
松尾 崇



「インフラ崩壊時代に問われる 市民の責任」

東洋大学経済学部教授 PPP研究センター長
根本 祐二氏



1978年東京大学経済学部卒業。日本政策投資銀行入行後、地域企画部長などを経て、2006年東洋大学経済学部教授に就任。専門は公民連携、地域再生。内閣府、国土交通省などで公職多数。2012年から鎌倉市公共施設再編計画策定委員会委員長。

「事例に基づく再編手法」

コーディネーター	東洋大学経済学部教授 PPP研究センター長	根本 祐二氏
パネリスト	鎌倉市長	松尾 崇
	早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授	小松 幸夫氏
	首都大学東京 都市環境学部建築都市コース助教	李 祥準氏
	東洋大学PPP研究センターリサーチパートナー	増井 玲子氏

●日時：平成26年11月23日(日)
14:00～16:00 (開場 13:40)

●定員 150名 (入場無料)

※事前にお申し込みが必要です。
申込み先は裏面をご覧ください。

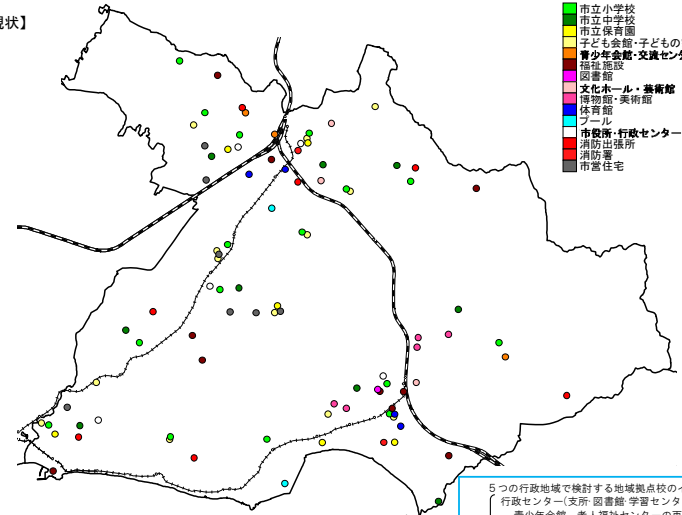
●場所：鎌倉商工会議所 (地下ホール)
鎌倉市御成町 17-29

※駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

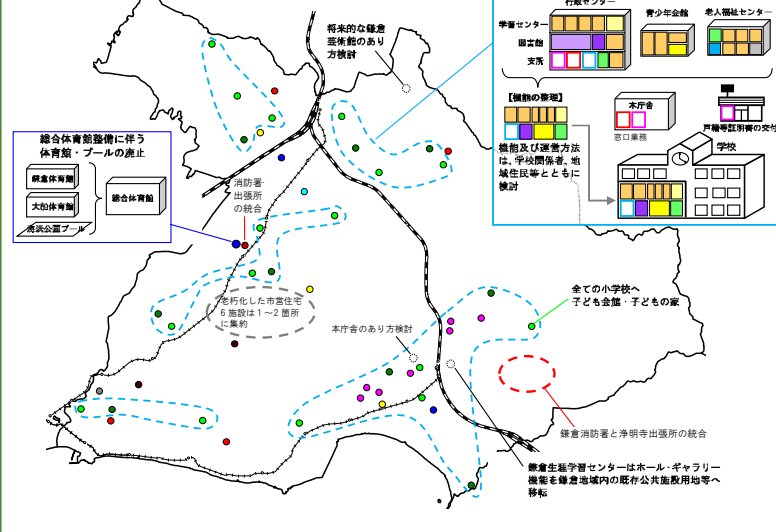


公共サービスの提供を続けていくためには施設の再編が必要です

【現状】



【再編イメージ】



お申込み：鎌倉市経営企画部経営企画課公共施設再編推進担当
電話：0467-23-3000 (内線 2565)
メール：facility@city.kamakura.kanagawa.jp

資料4-6 マンガでわかる公共施設再編の取組

公共施設の課題を分かりやすく市民に伝えるため、鎌倉女子大学（学生センター、作画研究部）に協力いただき、「マンガでわかる公共施設再編の取組」発行しました。（平成25年10月）

1

マンガでわかる 公共施設再編の取組 鎌倉市の場合

先生！
お父さんから聞いたけど、公共施設の大きな問題って何!?

父です。
若宮 佐助
講義の父親
職業：ジャーナリスト

お父さんから聞いたけど、公共施設の大きな問題って何!?

若宮 渚
福祉学部 保育士志望

噂を聞きつけるのが早いな 若宮！
さすがジャーナリストの娘さんだ

やまど 大和
職業：大学教員
趣味：美術館巡り

このマンガの舞台は 古都 鎌倉です

公共施設ですか・・・
おばあちゃんが老人福祉センターに行っていましたね

山桜 竜胆
小町のおばあちゃん

山桜 小町
社会学部 小学校教諭志望

どんな問題かは次のページからのマンガを読んでくれ

道路や橋、下水道やトンネル等のインフラ施設も公共施設だよ

学校とか、図書館とか、消防署とか、保育園とか？

ところで、公共施設って何かわかるかな？

今日は「公共施設の更新問題」をテーマに授業していくぞー

テーマ 「公共施設の更新問題」

最近、公共施設の事故が多いようです

7:10
映像提供 若宮 佐助
△△市で、屋内プールの天井が崩落しました

平成25年7月10日
△△市で、屋内プールの天井が崩落しました

そし学校 オープンキャンパス当日

※作品中に登場する人物は実在しません。

2

他にもあるが、今公共施設が問題になっている

問題？

そうなんだ

えーと

管理が適切に行われていないと事故につながってしまうんだ

がさ

がさ

怖いわねえ

中央自動車道 笹子トンネル 天井板落下

例えば、こんなケースをみたことないかい？

施設の維持・更新に巨額の費用が!

公共施設の更新問題とは？

- かつての急激な人口増加に対応して整備された公共施設が老朽化
- 今後集中して施設の改修時期が到来
- 巨額の財政負担が発生

鎌倉市の事故って聞いた事じゃないから平気じゃない？

でもさ、鎌倉市の事故って聞いた事じゃないから平気じゃない？

若宮、それは違うぞ

え？

公共施設は税金でつくって維持管理しているわけよね？

うん

少年高齢化とか、社会保障の増加、国や市も財政状況が厳しいと思うの

3

【公共施設の築年別整備状況】

築30年以上の公共施設 平成24年度時点：65% 平成44年度時点：97%

普通財産・その他
供給処理施設
行政系施設
市営住宅
社会教育、市民文化、スポーツ関連施設
子育て関連、保健、医療、福祉施設
学校教育施設（小中学校）

上の図を見てください

鎌倉市の公共施設は昭和年代から50年代に多く建てられている

平成24年度 65% だったのが・・・
平成44年度 97% に！

つまり、老朽化した建物が増加

おばあちゃん、そんな簡単にいっていいの？

でも、建て替えや改修すれば問題ないよね

でもさ、少年高齢化とか、社会保障の増加、国や市も財政状況が厳しいと思うの

